

1 2 梨の現状と振興方策

(1) 中部地区の現状

- ◆県の約6割を占める主要産地
県全体の梨栽培面積に対して、中部地区は約6割を占める梨の主要産地である。
- ◆新品種の導入
二十世紀梨が中心品種であるが、新甘泉等の県オリジナル品種の導入も進んでいる。
- ◆栽培面積は減少傾向
栽培面積は、年々少しずつ減少している。

令和7年度梨栽培面積

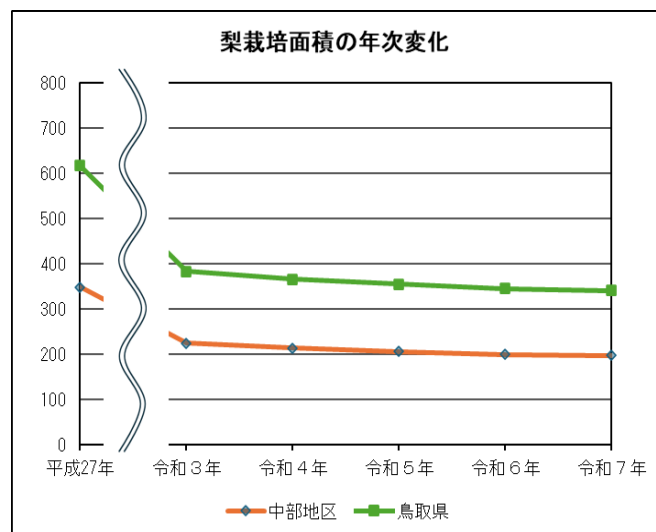
品種	区分	鳥取県に占める割合(%)	
		中部地区(ha)	鳥取県(ha)
二十世紀		100.15	63.5
ハウス二十世紀		7.55	75.0
新甘泉		44.05	52.8
王秋		9.99	41.0
その他品種		35.88	54.5
合計		197.62	57.9

梨栽培面積の年次変化

年	区分	中部地区(ha)	鳥取県に占める割合(%)	鳥取県(ha)
平成27年		348.7	56.4	618.0
〃	〃	〃	〃	〃
令和3年		225.5	58.7	383.8
令和4年		214.2	58.4	366.7
令和5年		207.0	58.1	356.0
令和6年		200.0	57.8	345.9
令和7年		197.6	57.9	341.4

※データ出典

・全農とっとり果実課 栽培面積とりまとめ表



(2) 振興方策（令和8年度）

- ◆鳥取梨生産振興事業（単県事業）
県オリジナル品種・振興品種の生産拡大・高品質化を目的とした生産基盤整備等の支援
- ◆戦略的スーパー園芸団地整備事業（単県事業）
果樹団地を産地活性化の拠点とし、新規就農者を主とした団地入植者への生産基盤整備等の支援
- ◆ともに目指す！担い手強化支援事業（単県事業）
意欲ある農業者等が行う創意工夫を活かしたプランの実現を支援